特別小特集

ICT活用によるモニタリングシステムと関連技術

編集にあたって

特別小特集編集委員会委員長　服部哲郎

四国支部における特別小特集の編集依頼があった頃，人間社会を取り巻く自然環境のみならず，社会的環境そのものにおいても，これまでと異種の変化を個人的に感じていたため，ICT 活用の監視（モニタリング）を主題とする編集を考案した．

その主題設定には，ICT に対する個人的期待感も入っていた．すなわち，ICT を駆使した種々のモニタリングシステムやそのネットワークにより，自然や人間社会における様々な変化や災害等の予兆を捉え，来るべく事態への準備ができれば，いざという場合に機敏に対処できて，被害を最小限に抑えられるという期待感である．また応用として，食糧を含む種々の生産性向上にも役立つであろう，ということも考えられた．

そこで，編集委員会委員を通して，主として四国各地において実際にモニタリング関連の技術開発を行っている企業や研究機関に問合せをして頂き，モニタリング関連の開発事例，応用事例を集めることにした．そうしてから，安心安全な社会に向けたモニタリングシステムとその関連技術開発の，四国における取組みの紹介として特別小特集をまとめることにした．

その後，執筆依頼対象の選定作業を行った．その場合意図したことは，学術的というよりも，実際に開発され利用実績のあるものを優先するようにした．たとえシンプルなシステムでも，それが実際面においてどのような仕様で，いかに利用され役立っているかの実態を把握することは，実際的ものづくりを目指す研究者にとって有用な情報だと思われるからである．

しかしながら中には，執筆記事が学会誌に掲載されると知り，「技術的新規性はほとんどないから」と執筆を遠慮された企業もあった．その場合でも，実際に稼働中であり役立っている開発システムや装置ならば，その実利用上の体験談や問題点記述が貴重な資料になり得るとして執筆交渉をしたが，固辞された企業もあった．結果としては，大学関係者が 6 件，企業関係者が 4 件でこの特別小特集を構成することになった．これらの記事を読むうちに，種々のモニタリング機能が有機的に結合されるネットワークを想像した．もちろんセキュリティを考えれば接続しない方がよい場合もあるが，別な回線利用等の工夫されたネットワーク化も考えられると思う．

このような編集作業の途上で，くしくも，東北地方太平洋沖地震が発生し，地震・津波による災害のみならず，原子力発電所についても悲劇的状況のニュースが入ってきた．過去に生じ得なかった災害レベルを想定外として視野から外すのではなく，想像し難い事態も可能性ありとした上で，願わくば，一層のモニタリング設備や機能の充実と有機的分散ネットワーク化が行われ，より安心安全感の得られる社会へと立ち直ってほしい．

平成 23 年 10 月号特別小特集編集委員会

委員長　服部哲郎（香川大学）　幹　事　石井光治（香川大学）　委　員　今井慈郎（香川大学）
委　員　大野泰夫（徳島大学）　委　員　島本　隆（徳島大学）　委　員　中川　清（香川大学）
委　員　仲村泰明（愛媛大学）　委　員　山口順一（香川大学）

© 電子情報通信学会 2011